

ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報誌

Take free!

なほ

1 月号
vol. 131

謹賀新年



特集

にいなりもん

「戌年だワン！ by ゴンくん」
長橋3丁目付近にて撮影

にしなりもん

西成にもまだまだ発掘されていない文化資源・社会資源は存在するはず。これら西成産のモノやコトを「にしなりもん」と名づけ、その由来やエピソードを辿っていきます。



阿修羅さんと寺本館長

社会の眺めかた

暴力がテーマのとあるセミナーで「被害者だけでなく加害者へのケア」について質問する人物がいた。髪の毛を紫色に染め上げたその人は水野阿修羅さん。一部では有名人だそうだが、あまり知らなかった。「人生は物語 (<http://lifestory-gallery.com/>)」や「人民新聞社(短期連載…脱暴力を呼びかける)」を読むと、氏の半生を知ることができる。

1960年代には学生運動に関わり羽田闘争(※1)でゲバ棒(※2)デビューし、70年代に釜ヶ崎へ。暴力団とガチンコで向き合った釜共(暴力手配師追放・釜ヶ崎共闘会議)時代や外国人支援、男のための脱暴力グループ(メンズサポートルーム)に取り組みきっかけなどが記録され

ていた。いまの柔和な風貌からは想像もつかない、正義と暴力の真つただ中にいた水野さんが妻との生活や子育て、買春問題との出会いなどを経て、「男らしさ」を脱却しようするまでの足跡はタダモノではないの一言。そんな水野さんは今の西成や社会をどう見ているのか。寺本館長とインタビューしてみた。

※1 羽田闘争

佐藤栄作首相が南ベトナムを含む南アジアへの外国訪問阻止を図った新左翼(学生…約2500人)と機動隊(約2000人)が羽田空港入り口付近の3つの橋で衝突した事件。学生側に死者1人が出た。

※2 ゲバ棒

ゲバ棒の略。左翼団体が実力行使時に武器として使用する角材やそれに類似する棒状の武装のこと。

回復に必要なこと

田岡 水野さんの記録のなかに「初めてゲバ棒を渡された時は動揺していた。でも、使ってみると暴力への抵抗がなくなり、それに合わせるように、日常生活のいろんな場面で恐怖心がなくなっていく」とありました。恐怖心がなくなるといのはどんな感覚ですか？

水野 「怖さ」は異質なものと出会ったときに生まれる自己防衛のための特別な感情だと思っ。何を怖いと感じるかは、その人の立ち位置を表している。死や痛みを想像すれば、暴力は怖いものになり、正義や「やらなければやられる」という極限状態でなければ、立ち位置を乗り越えられない。でも、暴力への恐れがなくなると、感情も麻痺していく。感情が麻痺すると恐ろしいことに、日常生活のあらゆる場面で恐怖心がなくなる。い

までも海兵隊では人間性を失うように徹底的に訓練し、それに耐えられるようになって、初めて配属される。生死を賭した勝負の世界では感情が邪魔になるし、暴力を振るうほうからすれば手っ取り早い解決策で、なかなか抜け出せない。

田岡 それがDVや虐待での「被害者だけでなく加害者へのケアも」という発言につながるのですか？

水野 ケアの第一歩は加害者が暴力を肯定している自分に気づくことだけど、やってはいけないと頭でわかっていても、暴力を繰り返してしまうケースも多い。やってはいけないけどやっってしまう。これは苦しいと思う。依存症とよく似ている。ただ、頭だけではなく、心の中から「こうやれば変わるかも」という共感やヒントに出会えなければ、なかなか変われない。ドクターやカウンセラーからの指導や治療は「教訓」にはなるけど、回復

を果たした当事者との出会いは「希望」になる。希望を持てる「変わろう」という強い動機づけになる。正しい方法も大切だけど、いろんな方法や人に出会い、たった1つでも希望が持てればがんばれる。このことはまとも一緒かもしれない。いろんな実験とチャレンジが身近にあると希望が持てて、まちが元気になる。



『羽田闘争：昭和史全記録 1926～1989』毎日新聞社より

パー状に広がり、カナダ政府が外国人の土地売買に制限をかけたほど。

寺本 今年に入って、西成人権文化センター(以下…人文センター)跡地に、労働下宿みたいなのが出来たが、もう閉鎖した。あつという間の出来事で、計画倒産を疑ってしまう。

水野 求人広告をみると姫路の辰巳旅館グループが建てた労働下宿ということだったので、計画倒産はなさそう。星野リゾートも期限内に建設されなければ、大阪市が買い戻すという特約がある。さすがに人文センター跡地もそこまで自由にはさせないのでは。

ただ、再開発は民間活用が基本。フェスティバルゲート跡のマルハンや矢田南部の大規模開発計画のように、民間に使いやすくしていくばかりで、どこまでコントロールできているかはわからない。行政主導の大規模

再開発は失敗が続いたが、「民間活用」という名のもとに、新自由主義的な理屈のみで、市民の財産が大きな資本に食われないうちに注視はしなければ。

釜ヶ崎の再開発もいろいろ意見はあるが、その将来を悲観してはいない。ホルモン食べながら自撮りを楽しむ若者も増えたし、山王近辺ではアート系のお店やライブハウスも増えてきた。まち歩きも社会問題一辺倒ではなく、古くからのひとり鍋屋など食文化を楽しむルートもできるようになった。若者が小さな



辰巳旅館 (人文センター跡) の求人広告

変わりゆくまち

寺本 西成では特区構想以降、ホテルが新築されたり、星野リゾートが来たり、新宮駅界隈はどんどん開発されていく。北西部でも北津守に大型スーパーのラムーができたり、市有地が売られ建売住宅もできた。建売

の3割ぐらいを中国人が買っているそう。ちょっと前だと、「西成差別があるからなかなか民間が買わない」と言われていたので信じられない。

水野 釜ヶ崎の商店街に急増したカラオケ居酒屋も中国系のオーナーが多い。中国人は、西成差別と言われてもピンとこない。海外の土地を買い漁る現象はカナダのバンクーバーでも起きて、チャイナタウンがアメー

チャレンジをできるまちはたくさん。鶴見橋商店街も実験できるような場所ができたからおもしろくなる。それを受け止めるだけの地域の包容力もありそう。

貧困との向き合い方

寺本 北西部には1800戸の公営住宅があり、家賃区分1(政令月収10万円程度)の住民も多く、貧困問題が集中している。住宅自治の担い手育成や貧困の連鎖を解消しようと取り組んでいるが、生活が安定すると公営住宅を出ていくこともあり、対策をみつけれられていない。

水野 貧困はなくすべき「悪」かもしれないが、少し視点を交えてみればどうか。誰かを搾取して成り立つのが金持ちだとすれば、貧乏人はだれも搾取していない「善」にもなりうる。いまよりも良い暮らし、中流になれるという貧困からの脱却だけでなく、貧しくても楽しく豊かに

暮らせることを示すのにも必要。お金があれば楽しいかもしれないが、なくても希望がもてる暮らしはできる。それがないとチャレンジできなくなる。そして、共感できる希望がなくなれば、社会問題を解決しようとする運動もなくなる気がする。貧困問題に熱心な共産党も「中流になってみんなで幸せになろう」と聞こえるし、共産党と袂を分かつた解放同盟も次のゴールを模索しているようにみえる。

寺本 とはいっても、貧困の集中は差別を助長する。

水野 極端に言えば差別はなくならない。でも、差別はいけないのだから、竹井さんの言葉(※3)を借りると「差別をする奴がバカ・カスであり、だからどうしたん?」という接し方を個人レベルで根付かせていくことも大切。貧乏人がバラバラになるよりは、集中して一つのチカラに変えていくほうが良いと思う。当事者の団結は大きなチカ

ラになる。

寺本 当事者がおとなしくなると、力の強い者が好き勝手をはじめると、団結が必要なのは確かにわかる。ただ、そうするには高齢化が進みすぎていて、新しいやり方がないと前に進まないし、やっぱり貧困問題は解決していききたい。

水野 正義や正論にしばらくして体裁を取り繕うよりも、実験と行動が大切。子ども食堂はその典型だと思う。女性の視点でできることをやってみたら、見えにくくなっている貧困状態の

子どもたちを発見できた。次に何をするかは、その時に考えた方がいい。

かつては、「社会をよくするために革命が必要」という正義にしばらく、そのために暴力を正当化したこともある。そこに違和感が生じると組織にいることもできなくなった。でも、左翼であることはやめたくない自分がある。そんな時に、善悪二元論ではないグレーゾーンだらけの現実をみて、失敗が許されない詰め込み社会を耐え抜いた人々がつくったこの社会で、「貧困=悪」とするだけでない視点をもつようになれた。

文責：田岡 秀朋



ニューススタイルのまち歩き

※3 竹井さんの言葉

竹井正和さん…1961年大阪・西成生まれ。89年28歳でリトルモア設立。04年退社。その後FOIL(フオイル)を設立。アートの本を編集を中心に数々の本を手がける。17年8月のゆくとあいでの講演「西成魂でアートの界に喝」での一言

虎 緩

おう

えん

だん



第8回

子育てに取り組む人・団体・施設を紹介して、子どもを支えるネットワークをどんどん広げていきます！



高学年で揃って撮影

暗くてもナイターで練習してるぞ！ 西成梅南サッカークラブ

南開を自転車で行くと、昼間は静かなのに夕方には子ども達が集まり、賑やかに走り回っている一角があります。今回は主に南開ふれあいグラウンドで活動している「西成梅南サッカークラブ」(以下「チーム」)を紹介したいと思います。見学に行ったのは11月下旬で辺りが薄暗くなってきた時間帯。にも関わらず、子ども達が続々と自転車で集まってきて練習が始まりました。コーチの西井さんからお話を伺いました。

始まりは故田中先生

このチームは千本の成南中学で体育の教員。この30〜40人と高学年の約30人。女子の選手も3人います。高学年は週に4回の活動日があり、平日は練習、週末は試合が多いそうです。未就学児と低学年の活動は週末のみとなっています。高学年の選手は他の習い事や学習塾などで毎日忙しいため、練習に参加するのが大変です。練習への参加は強制ではありませんが、練習のない日に他の用事を済ませるなど、それぞれが工夫して積極的に練習に参加しているようです。近隣の長橋・松之宮・梅南津守小学校だけでなく、千本・岸里などの西成区内や、なかには浪速区から通う選手もいます。

府下に300もあるライバル

チームは大府サッカー協会の4種に所属しています。試合結果や対戦相手を協会のホームページで調べてみると、大阪府下に約300チームの登録がありました(2017年春現在)。チーム名を眺めているとガンバ大阪やセレッソなど、プロのジュニアチームと同じところに「西成梅南サッカークラブ」も並んでいました。チーム数や対戦相手を見るだ

をされていた田中先生(故人)が1991年に

始められた活動です。西井さんは奥様の遠い知人を介してチームがコーチを探していることを知り、練習を見学に行ってみると恩師の田中先生が監督でした。その頃、西井さんのお子さんはまだ小さくてサッカーを始める前だったので、恩師との再会がコーチを始めるきっかけになりました。以来、20年に亘ってコーチとしてボランティアで指導しているそうです。

選手達について

チームに通う選手(子ども達は「選手」と呼ばれている)は、未就学児から小学校の低学年まで、勝ち上がっていくのは非常に難しいことだと思えました。主催者や学年ごとにたくさんさんの大会があるようですが、今年の「全日本少年サッカー大会」の予選では、大阪市地区で一次〜四次のリーグ戦、さらに次のトーナメント戦の3戦目まで勝ち進んでいました。

薄暮のなかで元気いっぱい

日が早くなるシーズンにはナイター設備を使って練習しています。グラウンドにポールと西井さんの指導する声が響いており、薄暗くなっている周辺と対照的な雰囲気でした。選手達にカメラを向けると「写真撮って〜」と元気一杯で、サッカーには手狭なグラウンドを走り回っていました。

活動時間

- 高学年
火曜 木曜 17〜19時 土曜 14〜17時 日曜 12〜15時
 - 低学年
土曜 12〜14時 日曜 10〜12時
 - 未就学児
日曜 10〜11時
- 会費・服装などの詳細やお問い合わせはホームページまで。
<http://dainansc.web.fc2.com/>

レポート… 沖田一志・寺嶋公典



ドリブル、ドリブル



ナイターで練習



【田岡秀朋】居住支援法人の登録がはじまった。期待されている活動は隣保事業に非常に近い。ゆ〜とあいも法人登録をした。これまでやってきたことがつながる予感がする。



【佐々木敏明】どこいしょと身に反動をつけ寒鴉あめつちに唾棄する亡者よ三島の忌弦月が兎身ふたつにぶったぎる



【沖田一志】私は騒がしいのが嫌いなので自分からテレビをみることはありません。なので、お正月のザワザワした特番が特に嫌いです。子ども達はそんな特番をたくさん見るので、正月は・・・



【飯島照喜】早いもので、今年もあと少し、毎年思うが「来年こそは…」。やはり今年も、いくつになってもだ。でも来年はちょっと違くと、駆け足で今年の思いの総決算に躍起になっている。

おもろいひとひと

地域にねむるヒト資源。その気で探すといっているオモロイ人が、『なび』はオモロイ獲物をさがして今日も行く。隔月でお送りします！

サッカーチームをサポート 中本 整さん (「YAMAカレー」オーナー)

ヤマさんこと中本さん(55才)は、本誌06年11月号『飯ユラン』で登場している。ただし食べ歩きがテーマで、地域の美味しい食事処に特化したコラムであった。私が本誌で担う『おもろいひとひと』は、あくまでヒトであり登場人物その人をテーマとしている。だから今月号の『おもろいひとひと』も食事話ではなく、ヤマさんの人間本位の話の聞かせてもらった。ただし、店舗「YAMAカレー」の概略だけはお伝えしておきたい。父が72年に長橋で創業。息子の中本さんが今の場所に引き継ぎ開店した。YAMAカレーの由来が面白い。山登りが好きだった父親が、六甲連山の摩耶山をヒントに、店名を「耶摩(やま)」と命名した。にもかかわらず来店する客たちがマヤ、マヤと呼び間違え、客の要望(?)にこたえて「YAMA」と改名してしまった。この逸話を私は今回初めて聞いたのだった。



中本整さん

15年も前、西成に来た私は、カレーの評判を聞きYAMAを訪れた。店内壁面いっぱいサッカーシューズや、選手たちのユニホーム・ナンバーが飾られていた。これは今も変わらない。サッカーに疎い私は、オーナーの単なる趣味の集積とばかり眺めていたが、それはちょっとハズレだった。

中本さんは幼いころからサーファーであり、ニール・ヤング、ディラン、ソウル、レゲエなどアメリカ音楽も好きで、私とは音楽話で共通した。中本さんは、サッカーとはそれほど縁はなかったが、この地で開店した頃、セレッソの通訳がゼ・カルロス選手を連れてきた。彼がYAMAのファンになったと同時に、30人ほどいるセレッソ選手の多くが、YAMAに来店するようになっていく。それ以来、YAMAは選手たちの食事の場、憩いの場となっていった。

マスコミやファンが聞きつけても、ここは中本さんがシャットアウトする。ただでさえ目立つ立場の選手たちだからこそ、プライベートを大事にする彼らの防壁になりたいたい、という一存が中本さんにある。「ここでは他で聞けない選手たちの日常の語りがある」と言い、「同時に彼らが来てくれることでYAMAは成り立つ。従来の町の様子が変わり、どんどん集客が望まれなくなってきた。そこで彼らがYAMAを応援してくれ、YAMAが彼らの私生活の一部を見守っているというような関係にある」。中本さん！それこそがサポーターの真髄やね。ここはちっちゃなコミュニケーションであり、俗に言えば相互の居場所だと思ふよ。

「セレッソ来店者の全選手の辛さ、味覚などカレー好みは全部知っているし、何より友だち感覚でつきあっている」と言いながらも、選手たちを見る目は厳しい。「香川選手のような人一倍練習する人たちが海外でも活躍する。人柄もよくコミュニケーションがうまい。そんな人は成功を得る。実力、努力は勿論だけれど、人間力を持つということが大切な要素やと思う。それを「サッカー馬鹿」というのかな」。長年美味しいカレーを提供してきた「カレー馬鹿」の中本さんは、忙しさも忘れてサッカー談義には饒舌になった。

レポート:佐々木敏明

*「写真は勘弁して」という中本さんだったので、私のイラストで代用させていただきました。



[安田拓也] #建物修繕・新築#水漏れ#太鼓#天神橋#物件探し#人の結婚式#路地#富田林#福井#ライブ#難波屋#ジャズ#食博#民泊#奈良#登山#沖縄#事件#アート うん、やがましい。

[西田吉志] あけましておめでとうございます。さて、新しい年がはじまりましたね☆気持ちもいれかえて今年もがんばろっ!! みなさん、今年もどうぞよろしくお願ひいたします!



中嶋 梨花(なかじま りか)さん

新年最初のおとなりさんは、にしなり隣保館「ゆ〜とあい」で受付業務を担当している中嶋さん。ゆ〜とあいのオープン当初から受付に座り、ゆ〜とあいを支えてくれています。細かなところに気が付くし、何事にも根気よく取り組む中嶋さんですが、恥ずかしがり屋で人見知りする性格なんだそうです。プライベートでは、家にジッとしているのが嫌いで、家族揃ってお出かけすることが多いみたい。好きなものは、歌手の林部智史(はやしべさとし)さん。あと、恋愛系のアニメを実写化した映画も好きで、よく旦那さんと見に行くそうです。これから一緒にゆ〜とあいを支えてくださいね。

たくの 3くふうたま

畳

間

せいりせいとん

ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から、紡ぐヒントを探してみる。

整理は要らないモノを捨て、整理でルールを決めて整える。これって意外と難しい。皆が得意だと、きつと困りごと起こらない。それが多くの人達のモノゴトだとすれば、なお大変。家に焦点を当てると、とくに持ち家の相続では大きなお金と時間がかかり、成り行き任せだと、遺された人達みんなの持ち物になって、さらに物が多くて收拾がつかなくなると、家ごと負の遺産になってしまう。なので、整理整頓は特別なイベントとしてするのはなく、その都度行うことが大切らしい。家族で相談しながら、色んな思い出を少しずつたみ、安心して次の世代に引き継げれば子ども達も住むかも知れないし、人への貸し売りもスムーズになることだろう。一般に、日本の家は他の国に比べて、広さの割に物が異様に多いそう。豊かだけれど、片付けが苦手なのか、物がないと不安なのか。そこから解放されたれば、もっと人との関わりを大切にできる気がする。

とは言いながら、年末大掃除というイベントは家族が交わる年越しの風物詩。

(安田拓也)



[寺島史視] 本誌12月号で今月のお隣さんとして紹介され、にしなり隣保館「ゆ〜とあい」に勤務する寺島です。まだまだ不慣れなところもありますが、これからよろしくお願ひします。



[谷口円] 厄年というものをあまり信じていなかったのですが、昨年までの厄年3年間でちょっと考えが変わりました…ついに厄が明けた今年は晴れやかな日々が待っている気がする、そんな2018。

「まずは、おいでよ。」ゆ〜とあいには中学を卒業してから進路を一緒に考える場所と時間があります。そんな“フリースペース マナビバ!”の徒然な日常をお伝えします。

マナビバは毎週火・木曜日の10:00~16:00、ゆ〜とあい2階でオープンしています。
電話:06-6561-8801 Mail:info2@human-ref.jp



最初の第一歩

10月号で紹介した二十歳の女性が動き出した。家はずっとこもりつきりてほとんど外出しない。コンビニにさえ行けない。完全に昼夜逆転の生活を送っていた。母親の支えが唯一の頼み。時々訪問してくれる福祉サービスの方との関わりが家庭以外との接点であった。

マナビバの資源は、定期的な居場所の確保だけでなく、専門相談員との面談機能と関係団体とのネットワーク機能がある。まず、母親がマナビバの専門相談員とつながった。定期面談を重ね、本人も相談に来られるようになった。自宅からマナビバまで、かなりの距離を来ることができた。

並行して、関係機関に呼びかけケース会議を開催した。彼女の家庭に関わる様々な機関が情報を持ち寄り、支援の方向を確認した。その場でわかったことは、各機関は多くの情報を持っていること、なかなか打開できずにいること、母親の関わりが逆に彼女の外部との関わりを阻害している可能性もあること、など。

マナビバの相談員とつながり、彼女が、唯一の関心事である「絵」のことを誰かに聴いて欲しいことが分かってきた。カウンセリングと医療専門機関の紹介など、マナビバに来ることで、わずかながら彼女の希望に応えることができつつある。

文責：阪井 茂



い湯かげん

どうしようもないのなら、議会を解散したら良い

新年号なのに、また政治の話と嫌われそうだが、硬直した大阪市の制度改革議論に痺れを切らして、「いい(湯)加減」を綴りたい。橋下市長が人気を集めたのは、大阪市政は「非効率」、原因は「しがらみ」、結果は「財政危機」と現状を率直に訴えたからだだった。そして、①民営化や統廃合等「行政改革」、②区長公選等で官僚や議会や団体の「既得権抑制」、③府と市を一つにする「大阪都構想」を提案し、賛否は相半ばした。ここまでは「前期橋下改革」ところが、橋下市長が国政との「二枚看板」を掲げると様相は一変した。

①自民党まがいの「強引な政治」が目立ち、②改革の組板に乗せられた人々が「自己革新」に頑張っても寛容でなくなり、③橋下提議で「総合区」という国の大都市制度改革の対案を引き出したのに、都構想の住民投票にこだわった。そうして、後継の吉村市長になると、維新は議会内最大党派でも市民の中ではもう少数派になった。ここまでは「後期橋下改革」とにもかくにも、もったいない。「前期橋下改革」を継承し、「後期橋下改革」を修正するだけでも大阪市は良くなるのに。つまり、①議会で維新の「取りすぎ(その分マッチョになった)」を修正し、新しい改革志向の議員を増やす、②せっかくの改革機運を活かして議会・市職員・市民等関係者の

創意を引き出す、③せめて総合区に軟着陸し、市民の政治参加の道を拓く、それで良いとボクは思う。なのに、そうは問屋が卸さない。理由は、①総合区の可否も、住民投票の可否も現在の議員が決める、②反維新の議員が前期橋下改革さえ誉めないものだから維新も譲らない、③議会がそんな偏狭な対立に終始しているから、市職員や市民活動等も率直に意見を出しにくくなっている、それが現状だと思ふ。こんなんだつたら、議会は一回解散したら良い。橋下改革に○か×か△か、特別区か総合区か今のままか、それぞれ三択で立場をはっきりさせて市民に問うたら良い、乱暴を承知でそう思う。そうしない(できない)なら、議会で総合区の可否を決し、特別区を住民投票にかけるしかなくなるではないか。

ボクは「察し」の通り、橋下改革に△で、総合区が良いという意見なんだが、いま選挙があっても、選べる候補者がいないのではないかと心配している。ならばと、特別区も「今のまま」も論者は多いけど、総合区の論者は少ないから、「自治フォーラムおさか」(武直樹議員等が主宰)という小さな会合(武議員には失礼?)に通い、総合区で何が変わるか(変えられるか)を勉強し、時々発信もしている。ボクが橋下さんに△なのも、総合区賛成も△みたいなもので、「いい加減」だと思われれるかもしれない。しかし、○か×かに分けたがる世の中、意外と△という道は王道だと、障害者の就労支援の実例を通して、三宅嘉美さん(一般社団法人Me2)に教わった。以来「△思考」に心がけてきた。

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



昨年2月に亡くなられた石西先生の「偲ぶ会」が12月6日に執り行われた。地元の長橋小学校の教員として、また、松之宮小学校の校長先生としてお世話になった。教員時代はまさに大阪の同和教育の牽引者であり、家庭訪問の意味を深く理解され、子どもの表情や言動の裏側にある真実を見極めようとされていた。

その先生の姿は同和教育、人権教育そのものだった。偲ぶ会に集まれた皆さんも大阪の同和教育を推進した方々だった。ところで、現役の先生方はどれくらいそうした人権教育の進め方や部活問題を理解されているだろうか。ぜひとも石西先生をはじめ先達の思いを現役の先生方にも受け継いでもらいたい。

退職後はわが財団法人の奨学金事業や団体助成事業の審査員になっていただいた。その付き合いもあって、年に数回あった宴席では昔話に花を咲かせたものである。石西先生、本当にありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。(寺本良弘)



㈱ナイス代表取締役 富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



[若松司] ある日、携帯音楽プレイヤーを忘れ、久しぶりに街のリアルな喧騒に触れた。ノイズの底に静かさがあるような気がした。正月の3カ日に感じるあの静かさと同じような。



[山村裕太] 3ヶ月ほど前に自転車を盗まれました。そして今も……。電動自転車ほしいですが、盗まれることを考えると、恐くて買う気がおきない山村です。防犯登録って意味ないなあ。

地域の縁を心でつなぐ

松崎の心の時間

ある檀家様のお話です。

このお家には普段は誰も住んでおりませんが、毎月のお参りの日には岡山県から長男家族が帰って来られます。大学生の娘さんも京都の下宿先から、この日は二十歳になったので、美しい着物姿で帰って来られました。亡きお母さん、おじいさん、おばあさんに見てもらうためです。一緒にお参りをして仏様に報告しました。

この娘さんにとってお仏壇は単なる家具ではありません。長男さんも「お仏壇の前でお参りをしていると、亡き父がどのように思いながら生きて来たか少しづつ分かるようになりました」と。お仏壇は自分の「心」を映す鏡であり、亡き両親の人生を感じる大切な宝なのです。「親はなくても子は育つ」という諺がありますが、このご家族からは「親は死んでも子を育てて下さっている」ことを教わります。お仏壇は、自分の都合の良い願い事はかなえてくれないかもしれませんが、自分の都合を超えた真実を教えられるようです。

松向寺 通法

3年目は「和牛」スタイルで！

漫才の日本一を決める年末のM1グランプリ。個人的には、「和牛」が抜群に面白かったが、1票差で惜しくも準優勝。「和牛」は過去2年連続で決勝に進んだので、これまでのネタは使えないし、面白くて当然というハードルも上がってるので、不利な条件がそろっていた。

そういった状況で、「和牛」はどんな漫才をするのかを素人ながら注目していた。すると、これまでは水田(ボケ)を強調した漫才であったけども、今回は川西(ツッコミ)を強調した漫才に変わっていた。今までも面白かったけども、今回の漫才もとても面白かった。

自分はこのままでしかできない、これまでやってきたことを変えられないと思いがちな自分と比べて、評価も安定感も抜群に高い漫才のスタイルを変えて、面白い漫才を見せる「和牛」がとてもカッコよかった。3年目を迎える、「にしなり隣保館」も、地域が求める姿にどんどん変わっていく必要性を感じた。

COUNT 2.99

隣保館などで事業を行う中で感じたことをつぶやいて、西成のまちづくりに役立てていきます！



なび編集長 寺嶋典興



ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび1月号(vol.131)
発行日:2018年1月1日(創刊日:2007年1月1日)
発行:株式会社ナイス
発行人:代表取締役 富田一幸
住所:大阪市西成区長橋3-6-33
電話:06-6563-1156
E-mail:info@nice.ne.jp
url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:寺嶋典興
編集:飯島照喜、沖田一志、佐々木敬明、田岡秀朋、寺島史視、西田吉志、安田拓也、山村裕太、若松司(あいうえお順)
イラスト:hidarimaki デザイン:谷口円

facebook



facebook: <https://www.facebook.com/navi.nishinari/>